

やり直しのできる社会を！

新宿連絡会NEWS

2018.12.4
VOL. 74

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-6-10
関ビル106号 NPO新宿気付
TEL.03-6826-7802 FAX.03-5273-6895
<http://www.tokyohomeless.com>

冬に

笠井和明

またぞろ冬がやって来る。

新宿はあまり変わらず、いつもの冬に備えている。

なかなか、この季節はやっかいで、何回冬を越そうとも、毎年新たな課題が出て来て右往左往するのが、私たちの「冬」でもある。

今年はどういう年であったのか。そして、どのような冬なのか？漫然と冬を迎えると、多くの失敗が待っている。出来るだけ、その失敗を少なくしようと、毎年思う。

やり直しができる失敗ならまだしも、命に関わる失敗は、かなり罪作りである。

どうしようもないことも確かにある。その失敗を役所のせいにすることも出来る。政権や制度のせいにすることも出来る。しかし、それは直に当事者と接している私たちを免じてくれるものでもないし、

私たちの心を晴らしてくれるものでもない。

私たちが接したおっちゃんの「不幸」は私たちの「不幸」である。

そう言える迄、私たちは、長く路上を彷徨し続けている。

あるものは全て使え、ある知恵もすべて使え、歩きながら考える。

こんな風になるのが、私たちの冬でもある。

新宿は流動的な街に変わりはないのであるが、幸いなことに、おっちゃんらの数も少なくなった。かつての面で捉えるようなことは、もう余りなく、個の関係で捉えることも出来るようにもなった。

常連さんは、「馬場ハウス」を行ったり来たり。

ご新規さんは自立支援センターにまず入り、頑張ったり、頑張れなかったりで、ここを行ったり来たりするのも多いが、結局は飯場にいたり、住み込み仕事に行ったりし、固定化することは、かつてに比べると、あまりない。

他方で都市雑業系はビクとも動かないが、動かないということは、そこでの生活が幸か不幸か、出来てしまっている証であり、健康問題などが悪化しなければ、ニーズはあまり出てこない。

まあ、出て来たとしても、都合のいい一人よがりなものばかりで、ほとんどそういうのには閉口するが……。

情報伝達も、パトロール網があり、それに加えた歴史ある独自のネットワークもあり、チラシも毎週欠かさず発行し続けている。情報にかんしては思い



込みはあったといっても、孤立化することはない。

それに加え、医師や医療従事者によるボランティアの面々が定期的に区内全域、巡回を続けている。

そういう通年の関係と、活動を、量的にはあえて強化せず、質の部分のみ研ぎ澄ませていけるのか。まあ、これが、数年前から提唱しているスケジュール活動からの転換なのであるが、まあ、それが完成の域に至り、それと同時に、この問題が解消の道を辿ってくれれば、幸いなのであるが…。

さて、今年は、「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」に基づく新基本方針が7月に出され、今は都道府県の「実施計画」が順次策定中と云うところである。

東京都はオリンピックもあるので、慎重な基本方針が必要だが、おそらくだいたい、決まっている。

「住宅支援事業」なるモデル事業が、それなりの成果があったとして、全区の本格実施へと来年度からなるようで、まあ、かなり遅く、タイミングもどうかとおもうのであるが、まあ、それはともかく、目玉にはなる。

4ヶ所の自立支援センターを中心とした都区共同路上生活者対策の枠組みを生活困窮者（若年層）の方にスライドさせるかと思いきや、長期高齢のおっちゃん達の方にウイングを広げるとは、かなり大胆なものであるが、まあ、何もやらないよりは良い。東京都も「走りながら」否、「暢気に歩きながら」かも知れないが、それでも「考えている」証である。

管理のプロが行った昼間の概数調査の数もまた増えてはいない。大きく見れば、「下限で横ばい」という状況である。

まあ、数の調査はそんな感じであり、概ね景気と比例している。

そりゃ仕事があれば、サウナなり、カプセルなり、ネットカフェなり、ちゃんとした所で一杯ひっかけたい。そう思うのは当たり前である。東京では日雇にせよ、飯場仕事にせよ、引っ越し仕事にせよ、現場仕事がこの間、かなり増えている。サービス業も好調であり、警備、清掃などは人手不足で業者は悲鳴をあげている。それら、安定しようがしまいが、仕事に出ればそこに行くのが、これは世の常。

唯一収入があまりあがらないのが、インフォーマルな都市雑業の部類だけで、ここら辺の人々は、縄

張り等も出てくるので、拠点や居住に大きな変化はあまりなく、そのまま歳を重ねる。

路上生活者問題が長期化すると、ある程度健康で、就業可能層は良いとしても、就業による自立とやらかかなり難しい人々もまた路上生活化したりもして、問題を複雑化してくる。

50代も過ぎると、働き続けてきたガタが出、健康問題が噴出もする。肉体労働者は腰など、神経痛やら筋肉痛になったりもする。デスクワークに転職することは、そもそも狭き門で、管理職もまた、同じく。軽微な肉体労働があるかと云えば、そうはない。そうやって、どうしたら生きて行けるのかを模索し、それが失敗に終わり、貯蓄も使い果たし、家族からも見放され、最後の宿も追い出されたら、年金をかけていたとしても、年金が入るまでの間、路上生活の門が待っているのであるが、それがまた、一日、一日が長いこと、長いこと。

入院するまでもない病気や不調と云うのは、とても辛い。それを支えてくれる地域もなければ、生活保護と云う制度があっても、それで野宿をしなくても済むようになるだけで、その生活はとても退屈な日々でしかない。

まあ、これが路上生活者の高齢化の問題で、その部分は、景気がどうのこうの以前の問題となるので、そのまま残ってしまう。

数が減り、目に着かなくなることで行政への苦情件数も減り、報道も少なくなり、トラブルも少なくなると、意識が変化するのは当然であるが、それをもって本筋の対策を、「もう良いだろう」と後退させるのは、あとあと問題が起こるだろう。

今の対策が下支えしているからこそ、景気の動向と共に減っているのであるし、それを良いことに、支えをとっばらうと、また「がつくん」なんてことにもなる。オリンピック後の、ないしは消費税アップ後の、景気の循環は、注視しておかないと、この問題も、またぶり返しも考えられる。

まあ、大阪万博も決まったので、東京が終わったら、次は大阪と、建設業界も忙しさには変わりはないのであろうが、外国人を受け入れたとしても、年々年を食い、お役目御免になった我が国の労働者は、どこに行くのか？路上以外の行き先があれば、そこへ行き、なければ、路上に戻るのか？

そんな訳だから、都市はホームレスを「恐れながら」（言葉があれば、「意識しながら」、路上生活者を出さないよう「工夫しながら」）発展すべきであり、そのため、ホームレス対策を都市の多くの施策の中に内包しながら成長すべきなのであろう。

まあ、要は金持ちだけの都市にしてはいけないし、若者だけの都市にしてもいけない、多様性は国籍や性差の問題で近年は言われているのであるが、その前に、年齢、性別も含めた多様性の中で、トータルに考えなければならないと思うのである。

……

今年の春、連絡会の重鎮であったAさん（78）が、ご自宅で亡くなった。

今から21年前、都が単独で実施した暫定自立支援事業の第一期生。96年強制排除事件以来、初めて都と話し合いのテーブルについた頃、新宿住友ビル前の「路上交渉」と「路上受付」。

その渦中に居、運良く、その日入所が叶い、支援をうけながら、戸山公園近くに居を構え、暮らし、リウマチで苦しむ身体にむち打ちながら、多くの仲間を励まし続けて来た。

今年は連絡会の古き仲間が3名も鬼籍に入り、どうしたら良いのやら、喪失感だらけの年でもあった。

支援の側の高齢化も進む。

……

生活困窮者法が改正され、「社会福祉住居施設及び生活保護受給者の日常生活支援のあり方に関する検討会」なるものが、この11月、開始された。結論を早々に出し、貧困ビジネス退治をするそう。

戦後、都内のあちこちにあった「民間準厚生施設」が高度経済成長の時代と共に淘汰されてしまったので、バブル崩壊後の景気悪化時、伝統ある公的（社福系）な宿泊施設では対応できず、民間無料定額宿泊所が増えた。そして今の時代、「管理が」「部屋面積が」と、様々「いちゃもん」をつけ、それまで使ってきたものをお上の都合で淘汰しようとしている。

長い戦後の歴史から見れば「またかよ」である。

「貧困ビジネス」なるレッテル貼り手法を使い、利用者によって、そこで良しとする施設も、生活保護法の美名の下、退場させようとしている。この議論をそう捉える人も多いことであろう。

官の施設の厚生施設などの見直しの議論は東京都でやっているが、こちらは「厚生施設」を返上して、「救護施設」にしてしまおうと云う強行な意見もあり、方向性がどうも分からないものとなっている。視点がまた違った議論なので、共通点はあまりないのかも知れないが、「経過（中間）施設なのだから、かくあるべき」と云う主題はあまり変わらない。

まあ、なんと「頭でっかち」な議論なのだろうか。

ご本人がそこで良しと言う場所に住めば良い。それだけの話で、公があれが良い、これが良いと言うものでもなからう。

民間には民間の「モラル」と云うものがある。それを規制することはなく、「モラル」を保っている民間との協働を深めた方がより良いとは思っているのであるが、世の中、その役所も民間も、そもそも、そのモラルなんてものを信用ならん、「モラル」よりも数字だと云う、仁義と云うものを知らない輩が沢山いるので、まあ、難しい問題でもある。

なので、あれが良い、これが良い、あれが悪い、私が正しいと云う人々を信用しないことが、正しい道なのであろう。

何のこっちゃであるが、いずれにせよ、冬である。

結核健診×健康相談、10年の変遷

新宿区保健所では結核対策の早期発見として定期健康診断を行っており、ハイリスク集団としてのホームレス健診は、平成7年度（1995年）より結核対策特別促進事業の一環として行われている。

一方で、新宿連絡会医療班においては2003年度に、新宿中央公園で行う夏祭りにあわせて健康相談会を拡充して入浴サービスを展開した。以降、多くの方が集う夏祭りの場を健康へのアプローチの場として活用し、健康相談のみならず、鍼灸マッサージ、口腔ケアなどの様々なサービスを提供してきた。

そのような流れの中、2009年度より、新宿区役所の結核健診にも夏祭りの場を活用いただけることとなった。従前より、新宿区保健所よりの結核健診のアナウンスには協力し、当日も可能な限り医療班から誰かしらが同席するようにしていたが、新宿中央公園での夏祭りと同時に開催することにより、多くの方に結核健診を受診していただけて、更に、総合的な健康に関する相談を受けることができるようになった。

その後、諸般の施策もあり徐々に路上生活者は減じ

て来て、2013年度末にて新宿中央公園における毎週日曜日の炊き出しが終了した。これを受けて、2014年よりは結核健診の場を段階的に新宿区保健所前（第二分庁舎前）に移し、ホームレスや不安定居住の方々に、結核健診にあわせて新宿連絡会医療班による健康相談も一緒に受けていただく場となってきている

新宿区保健所前に移行してからの受診者は、おおむね半数は既に福祉行政との繋がりを持っている／持った経験のある方ではあるものの、健康に関してじっくりと話を聞いてもらえる機会はなかなかなく、通院中の方であっても、いろいろと相談される方も少なくない。なかには、これをきっかけとして、福祉や医療に繋がったり、家族と繋がったりする方もおり、貴重な場となっているため、今後も可能な限り続けて行きたいと考えている。

このような自治体（新宿区保健所）と民間非営利団体（新宿連絡会）とが連携することは、それぞれが単独では届かない方々にアプローチできることとなるため、大きなメリットと考えている。

（中久木康一・歯科医師）

表：結核健診と健康相談との連携（2009年～2018年）

ホームレス結核健診（H7年度より実施）	新宿区 路上生活者数		新宿区保健所 結核健診			新宿連絡会医療班		
	概数調査 （8月分）		受診者 数	結核 診断	コメント	健康 相談	受診 紹介	紹介概要、ほか
H20 2008	7月8日 新宿中央公園	342	81	2	平日			結核健診の受診呼びかけ
	7月28日 第二分庁舎		78	1	平日			結核健診の受診呼びかけ
H21 2009	8月16日 新宿中央公園	318	211	3	日曜、夏祭り同時実施	42	24	救急搬送・入院1
	10月14日 第二分庁舎		96	1	平日			結核健診の受診呼びかけ
H22 2010	8月15日 新宿中央公園	258	221	1	日曜、夏祭り同時実施	63	31	
	10月13日 第二分庁舎		62	1	平日			結核健診の受診呼びかけ
H23 2011	8月14日 新宿中央公園	232	133	0	日曜、夏祭り同時実施	12	8	
	10月12日 第二分庁舎		38	0	平日			結核健診の受診呼びかけ
H24 2012	8月12日 新宿中央公園	155	93	0	日曜、夏祭り同時実施	12	10	
	10月24日 第二分庁舎		47	0	平日			結核健診の受診呼びかけ
H25 2013	8月11日 新宿中央公園	120	95	0	日曜、夏祭り同時実施	9	4	
	10月23日 第二分庁舎		55	0	平日			結核健診の受診呼びかけ
H26 2014	7月30日 新宿中央公園	102	47	1	平日（この年から夏祭りなし）	19	2	医科2
	10月6日 第二分庁舎		16	0	平日（台風で大雨）	12	2	医科2
H27 2015	8月5日 第二分庁舎	99	140	0	平日	75	0	
H28 2016	9月5～6日 第二分庁舎	140	173	0	平日	146	5	医科2、歯科3
H29 2017	7月5～6日 第二分庁舎	142	175	0	平日	100	5	医科5
H30 2018	9月4～5日 第二分庁舎	未発表	169	1	平日	96	5	精神2、歯科3

結核健診で健康相談会を併催する意義

結核は、今では「しっかり治療すればほぼ100%治る病気」になりましたが、①それほどひどい症状が出ずに普通に仕事ができちゃう、②治療して症状がなくなっても完全に治ったわけではなく、高齢や病気などで休眠していた菌が再燃して発症することがある、という面で、厄介な病気です。

野宿者の方々は、「多少体調が悪くても医療機関に行かない・行けない」「いろいろな場所を移動しながら生活し、不特定多数の人との接触がある」「路上生活が長く、70代以上の年齢層の人も増えてきた」という点で、結核の大きなリスクがあり、健診の機会はとても大切です。

路上生活者が多い大阪市西成区では、2016年の結核の罹患率（人口10万人あたり1年間で結核を発症した人数）は173くらいで、全国の罹患率の10倍以上が続いています。

結核かもしれない体調不良を抱えた方々には、結核以外にも健康上の問題がある方々もいます。結核健診を受けに来られた方がその場で医療相談を受けることで、困っている方との接触機会を増やして早期に悩みに対応できるメリットがあると思います。

普段の訪問健康相談の時にも、日が近づくとも結核健診の宣伝はしていて、「ああ知っている」「今年はいつだっけ？」と、関心をお持ちの方もいらっしゃいます。結核健診での健康相談の場で「ここでも会いましたね」「新宿連絡会の医療班の人はここにも来ているんだね」というような会話が弾むこともあります。医療へのアクセスをよくして安心して生活するための下支えの一部になっていれば嬉しいことです。

（角 泰人・医師）

路上の方々へのご案内と、当日の流れ

結核健診の案内は、開催1か月ほど前から、新宿連絡会のおにぎりパトロール・医療班活動の時に、「誰でもいいんですよ～。来てくださいね」と伝えて回っています。

2017年は極暑の7月に、2018年は台風直撃の9月に行われましたが、それでも健康相談に顔を出してくださった方は100名程にもなり、ご案内した効果を感じました。路上で出会ったの方々、ビッグイシューの健診でお会いした方々とそここでお会いすると、私の方がホッとしたりします。

当日は新宿区保健所のスタッフが「結核健診してまへす」と声掛けを行い、結核健診を受けます。その健診の結果待ちの 때가、私たちの出番です。保健所の用意した飲み物とおみやげを持って、「お疲れ様です。お医者さん看護師がいますから何でも気になることはどうぞ」と声掛けをしています。飲み物とお土産の効果は大きいのでしょうか、ふっと笑顔を頂けます。「そうか、血压測ってもらおうか」「〇〇話してみるか」「医者にはかかっているよ、大丈夫」と反応はさまざまですが、健康相談に体を向けられた方々は健診を受けた方の6割程になりました。

健診や健康相談にいらしたわけではなくとも、何か戸惑って困惑している方に会ったときには「どうぞ」と声かけてじっくりとお話を伺い、必要な時には、新宿区保健所・新宿区福祉事務所に繋げています。じっくり話を聞いて初めて理解できてくる事はたくさんあります。解決したとか結果を求めることではなく、何でも会話している「健康相談」は独り暮らしをしている方、路上生活の方々の心の中にほんの少しの信頼と安心の元となっていってくれたらと願うばかりです。

（村尾 知恵子・薬剤師）

じっくり話を聞いて、行政とも相談できる大事な場

新宿区保健所前の結核健診は、ここ数年は定着してきて、多くの受診者が来られています。保健所のスタッフが、手際よく胸部X線検査などの手配をしてくださるので、医療班は血压測定などをしながら、健康の相談やよもやま話（と思われる中に大事な内容が含まれていることも、）を担当しています。「去年も来たよー！」とおっしゃってくださる方や、中には夜回りや別の健診の場（ビッグイシューなど）でお会いした方もいらっしゃいます。「昔は血压の薬を飲んでたんだけどねー」なんておっしゃる方も少なくありません。年齢が高い受診者もおり、物忘れ、が心配な方も。継続的な関わり成果？か、緊急疾患や超重症な方はほとんどいないのですが、高血圧やももとの持病の悪化などの相談が多い印象です。

じっくり話を聞くことができ、その場で行政側とも相談することも可能であり、大事な場です。今後は血压測定のみならず、高血圧は心臓や脳の血管障害のリスクになりますよ、など、もう一步踏み込んだ情報をお伝えしていければと考えています。

（鈴木 景子・医師）

福祉に繋がり健康を取り戻するきっかけとしても

皆さんの生活の場と新宿区保健所・福祉事務所は同じ新宿で徒歩圏内ではありますが、医療や福祉へのアクセスには大きな隔たりがあり、そのなかで歯科医師及び人として何ができるのかを考えさせられます。歯科領域はある程度、セルフケア・セルフチェックが可能な領域です。しかし、相談にいらっしゃる方々は、普段は治療以外で相談や保健指導を受ける機会ほとんどない方々です。そこで、その方の理解力や価値観に配慮しながらも丁寧に相談・保健指導を行っています。

健康相談の中での『歯が痛い』、この一言から福祉へ繋げるチャンスを逃してはいけないと考えています。歯科疾患の治療目的に相談し、医療券発給となったことで、合わせて未加療の内科疾患の受診へとつながったケースも多くあります。

(谷口 健太郎・歯科医師)

どなたにも健康的な生活を送っていただきたい

「今日、泊まれるところある？風呂にも入りたい」と相談してきた40代半ばの方は、重そうなりュックを背負い、紙袋やビニール袋を両手いっぱいに持っていました。2サイズほど大きめのTシャツとズボンを着ており、立ったり座ったり落ち着きがない感じでした。仕事がなかなかうまく続けられないことに困っておられました。話を聞き、一緒に生活福祉課に行き、相談しました。

相談窓口で話をしていると、だんだん仕事が上手くできない理由が知的障害があるからだとわかってきました。愛の手帳（知的障害の手帳）も持っており、作業所に通所しているけれども、グループホームや実家でうまくいかず、相談する人もおらず、我慢できなくなって家出してしまったとのことでした。

居住区役所に連絡をとっていただいたところ、家族から搜索願が出ており心配しているとのことで、最終的には生活福祉課の方が電車で帰るのに同行し、グループホームの方が居住最寄駅まで迎えに来て、そこから家族に引き渡すこととなりました。

野宿の相談者の中には、軽度の知的障害、発達障害、精神障害の方やそれが疑われる方も少なくありません。コミュニケーションが上手くいかなかった

り、困ったことがあっても上手く伝えられなかったり、騙されたりトラブルに巻き込まれるなど危険な目に遭うこともあります。

彼の困りごとを周りも一緒に考えて、解決していくことで落ち着いた生活ができることを願っています。

「カギをなくしちゃって、アパートに入れなくて困っている」という、60代半ばの男性が相談に来たこともありました。「アパートの中に仕事道具が置いてあるからそれが無いと、仕事にも行けない。」とのこと。話を聞いていると、「以前、病気で倒れて生活保護を受けていたが、頑張って仕事をしてやっと生活保護から抜けられた。最近また体調がすぐれなくなってきていて仕事ができない日が増えてきている。でもまだまだ頑張らなきゃ。」という話でした。この方の問題点は、鍵ではなく、仕事ができなくなるほどに体調が悪くなってきており、通院をした方が良いということでした。もうほとんど現金も無く、ここ数日外で寝泊まりしているとのこと、一緒に生活福祉課に行き相談し、再度福祉に繋がりました。

このようなケースを経験して感じることは、みなさんプライドを持って生きているものの、生活や人間関係が上手くいかないことで傷つき、相談にいらした時には、かなり自分に対する評価が下がってしまっているということです。生活保護を受けることでさらに自分の評価が下がってしまうという思いがあるような言動も多く感じます。

生活保護は、生活のお金に困ったときに誰もが当たり前に受けることができる権利であることを強調し、どなたにも健康的な生活を送っていただきたいと考えています。

(上釜 ゆり子・看護師)



2018/10/7

季節の変わり目、皆様お元気でお過ごしでしょうか。越後のいろりん村も三年目の秋。

今年の春まだ浅き三月の、残雪の上にクン炭（粉ガラを炭化したもの）を櫛で運んで撒いて始まった今年の田んぼ仕事。夏には太陽の日差しをたっぷり浴びて、スクスクと育った葉を青々とした海のごとくに風になびかせて、そして今、黄金色の穂を垂らして稲刈りの秋を迎えました。「ここは瑞穂の国なのだ！」と気張る気持ちは無いけれど、山に囲まれた小さな棚田でこの風景に包まれていると、なんだかこの国に生まれたことが嬉しくなってくる私です。

五月の代掻き、六月の田植え。そしてその直後から延々と始まった田の草取りと畦の草刈。カラ梅雨の水不足でオロオロとして、猛暑の中をフラフラになって汗を流した。でもそんな苦労も、実りの風景を見ればすっかり忘れて達成感に満たされる。そしていよいよの稲刈りであります。わずか五畝（約150坪）のいろりん田だけど、なかなか立派な稲になっているぜ！いつもの関ビル発のワゴン車は四泊五日の日程だけど、今回はより多くの人に参加できるように二泊三日の短期日程にしてみました。作業は鎌で刈ってハサ（横に渡した長い丸太）に掛けて天日乾燥させる。完璧に作業をやり終えようなんて思わない。何せ素人集団の初の挑戦だ。やってみることに意味がある。ここまでくればお米はゲットしたも同然だ。もうひと汗流せば、あとはうまい飯を食うだけだ！

先月は初めての炭焼きもやった。実験的な火入れだったが、やっぱりちょっと失敗した。失敗したら工夫してまた挑戦する。難しいから、工夫するから面白い。今月は再挑戦の時間は無いけれど、年内中にもう一回焼いて、冬には「クマさんの炭焼き日記」の報告が出来るかもしれません。

関ビル前出発の稲刈りツアー。お気軽にご参加下さい。

2018/11/4

ご報告します。先月のいろりん村初の稲刈りは三名の参加でみごとにやり終えました。

1日半かけて丁寧に鎌で刈って縛ってはさ木に掛けました。その後10日間ほど天日乾燥して脱穀、籾すりをしてお米（玄米）になりました。収穫は二俵ちょっと（130キロ）。たいした量じゃないけれど、みんなで汗を流して採れたお米なので、味わって食べて欲しいです。「たかがメシ、腹がふくれりゃそれでいい」ってのもわかるけど、よ～く味わうとほんの一時でも幸福感にひたれるかもしれないぜ。そして、そんな小さな幸せを少しでも積み重ねられたら、人生明るくなれるじゃないの。

さて、いろりん村はすっかり紅葉の森に包まれています。今年の紅葉は何故かひとときわ鮮やかで、大袈裟にいえば山全体が燃え上がるようです。こうなるといつ雪がきてもおかしくない土地なので、いよいよ今年の仕事おさめ、冬仕度が始まります。今年は大根がしっかりできていますので掘り起こしてぶら下げて、たくあん作りに挑戦するつもりです。夏の間、風通しのよかった（！）宿泊小屋もちゃんと窓をふさいで、今年は薪ストーブを用意して、すこし快適にしたいと思います。「えっ、今まで窓も無かったの?!」と驚かないで下さい。少しずつ、本当に少しずつですが進化しバージョンアップするいろりん村です。

そういえば先月は休んだ炭焼きですが、先ず釜の補修工事をして、初めて本気で炭焼きに挑戦します。前回の試し焼きでは鎮火に失敗して多くが灰になっちゃったので、今度は大丈夫……かと思います。



2018～2019

新宿年越活動

2018年12月29日(土)～2019年1月3日(木)

<ところ> 新宿の路上など

餅つき大会(高田馬場事務所前)、	29日(土)
医療班+おにパト巡回 深夜調査パト	30日(日)
年越し祭り、医療班机だし(新宿中央公園)	31日(月)
駅重点パトロール、	1日(火)
高田馬場パト、駅重点パト、深夜調査パト	2日(水)
駅重点パトロール	3日(木)

* 臨時宿泊施設を用意し、必要があれば保護及び4日(金)の福祉行動

* 衣料テントは1/1から1/3まで高田馬場事務所前に常設

主催・新宿連絡会 03-6826-7802

新宿連絡会 会計報告

この間のご支援、ありがとうございます。規模は小さくなれど、内容の濃い活動を行なっております。引き続きのご理解とご協力、お願い致します。

2017年度新宿連絡会収支報告

勘定科目	金額	勘定科目	金額
I 計上収入の部		消耗品費	90,690
1 寄付金収入	2,585,220	事務用品費	15,730
		事務所費分担金	480,000
計上収入合計	2,585,220	衛生管理費	13,621
		支払手数料	41,680
II 計上支出の部		車両費	259,767
1 事業費		修繕費	6,500
弁当おにぎり事業	571,857		
越年越冬事業	606,452	計上支出合計	2,244,272
その他活動事業	70,335	計上収支差額	340,948
2 管理費		前期収支差額	△292,049
旅費交通費	13,572	次期繰越金	48,899
通信費	74,068		

2018年度 4月～10月新宿連絡会収支報告

勘定科目	金額	勘定科目	金額
I 計上収入の部		消耗品費	2,300
1 寄付金収入	510,000	事務用品費	0
		事務所費分担金	280,000
計上収入合計	510,000	衛生管理費	250
		支払手数料	0
II 計上支出の部		車両費	4,250
1 事業費		修繕費	0
弁当おにぎり事業	174,306		
越年越冬事業	0	計上支出合計	511,906
その他活動事業	25,100	計上収支差額	△1,906
2 管理費		前期収支差額	48,899
旅費交通費	5,200	次期繰越金	46,993
通信費	20,500		

●活動カンパ

振込は、郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

オンラインカンパは、<http://www.giveone.net/>「Give One (ギブワン)」(登録NPOを探すをクリックし新宿連絡会を見つけて下さい。)からだとジャパンネット銀行、クレジットカードで寄付が可能です。

●郵便物、物資カンパの送付先は以下の住所にお願いします

★郵便物は

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号 新宿連絡会宛てでお願いします。